第4章　結果

第1節　調査1（質問紙調査）の結果

第1項　参加者の個人属性

質問紙調査のPart Ⅰにおいては「女性コーチアカデミー2015」の参加者32名（全て女性）の年齢別の個人属性を中心に設問した。図20より、年齢区分では、本アカデミーの参加者は20歳代8名、30歳代10名、40歳代12名、50歳代2名とこれから活躍を期待される世代を中心としたバランスの良い構成となっている。

1．年齢区分と競技レベル

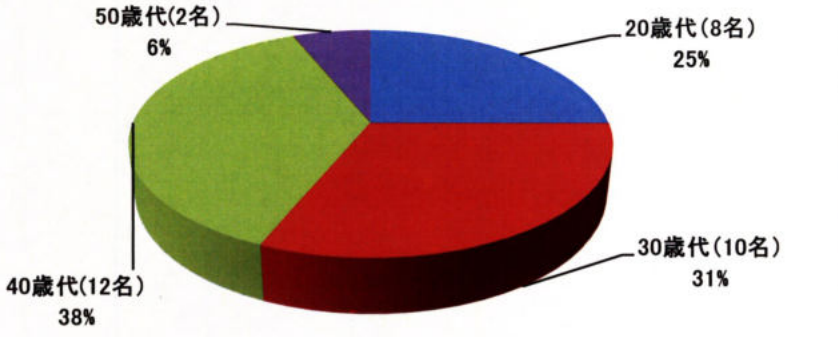

図20.「女性コーチアカデミー2015」参加者年齢区分(n=30)

※参考資料

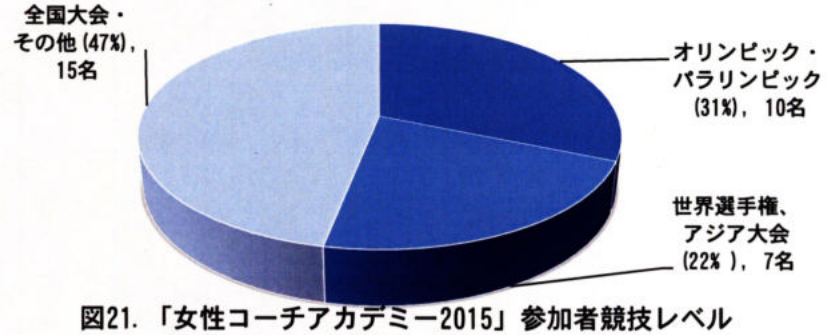

図21.「女性コーチアカデミー2015」参加者競技レベル
(出典：女性スポーツ研究センター，2015) (n=32)

質問紙調査での設問にはないが、今回の参加者の競技レベルに関して主催した女性スポーツ研究センターのデータによれば、オリンピック・パラリンピックや世界選手権などの世界を舞台に活躍した参加者が32名の中で17名と半数以上を占めているのと、その他の参加者15名も全国大会に

は出場したことのある参加者であり、参加者全体が現役時代にかなり高い競技キャリアを持っていた。

2．所属区分

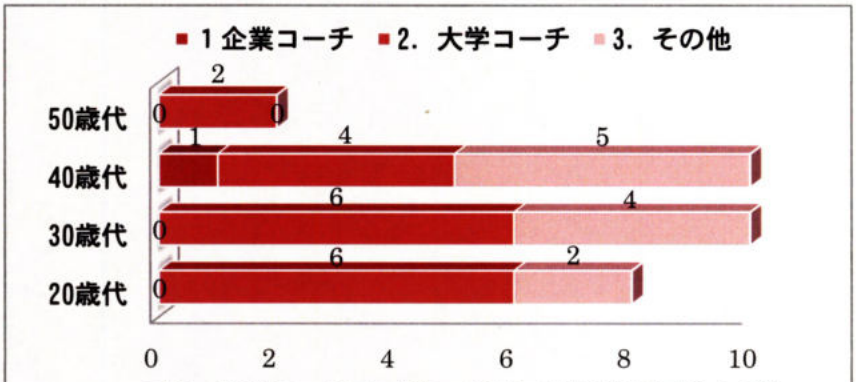

図22.「女性コーチアカデミー2015」参加者所属区分(n=30)

表15. 所属区分で「3、その他」と回答した参加者の記述

・パラリンピックゴールボール選手（32歳）
・現役大学生、来年創部予定（28歳）
・NF代表コーチ（43歳）
・現役選手、今後コーチ就任予定（28歳）
・JPC、日本パラ陸連（37歳）
・地域の小学生のコーチ（40歳）
・元アスリート（現学生）（30歳）
・女子日本代表監督（37歳）
・クラブコーチ/日本身体障害者水泳連盟（44歳）

所属区分をみると、18名が大学コーチと一番多く、11名がその他。企業のコーチは1名のみとなっている。これは、2015年5月1日に発表した募集要項での応募資格に①大学で指導する女性コーチ、②将来、大学コーチを目指す元女性アスリート、③その他（現役女性コーチ等）とされていることにより、自ずと大学で指導されている女性コーチの割合が多くなっている。しかし、その他ところでは現役の日本代表の監督やパラリンピックの現役選手、コーチなど障害者スポーツ関係者も参加している。

3．「女性コーチアカデミー2015」をどのようにして知ったか

「どのようにして知ったのか」という設問に対してだが、この「女性コーチアカデミー」を9月に実施するということを発表したのは、2015年2月の「女性スポーツリーダーシップカンファレンス2015」においてであるので、そこで知ってという参加者が多いのではないかと思われたが、予想

に反してそこで知ってという参加者は7名（23%）にとどまった。新聞・テレビの報道でというのはほとんどなく、所属の大学や会社からの紹介と友人・知人に教えられたというのが30%であった。

表16.「女性コーチアカデミー」をどのようにして知ったかについての回答(n=30)

アカデミーを知ったきっかけは何ですか？（複数回答可）	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	合計(%)
1.「女性ｽﾎﾟｰﾂﾘｰﾀﾞｼｯﾌﾟｶﾝﾌｧﾚﾝｽ2015」（2/14）に参加して	2	1	3	1	7 (23)
2. 新聞での報道で	0	0	1	0	1
3. テレビでの報道で	0	0	0	0	0
4. 所属している大学・会社などから紹介されて	1	2	2	0	5 (17)
5. 友人・知人に教えられて	1	2	1	0	4 (13)
6. その他（　　）	5	5	3	1	14 (47)

表17.「6、その他」と回答した参加者の記述

・Facebookを見て（39歳）（25歳）（28歳）3名
・SNS（27歳）
・順天堂大学ホームページ（46歳）、順天堂大学を調べてみた（23歳）2名
・女性スポーツ研究センターのホームページを見て（37歳）
・ネットニュース（50歳）
・郵送で案内が大学に送られてきて（31歳）（37歳）2名
・郵送でお知らせが届いた（40歳）（41歳）2名
・雑誌を見て（30歳）
・大学の先生から聞きました（28歳）

また、その他というのがおよそ半数にあたる14名（47%）だった。記述によればFacebookとSNS(Facebook以外のSNSかどうかは不明)で4名、順天堂大学や女性スポーツ研究センターHPで3名、ネットニュースで1名と8名は、パソコンかモバイルによる情報入手によるものであった。

さらに、女性スポーツ研究センターは今回封書において全国の大学にも案内の文書を送付しており、郵送による案内の文書に反応して参加したという方が4名もいたという結果が出ている。

第2項　参加者の参加理由と共感度

質問紙調査のPart Ⅱの前半においては、「参加理由や動機」「女性コーチアカデミー活動への共感度」や期待について質問した。

1．「女性コーチアカデミー2015」に参加した理由

参加の動機については、97%の参加者が「自分自身のスキルアップ」を挙げている。また、勧められたからというのが3名（1割）、その他の理由ではスキルアップを挙げた参加者が重複して回答している場合が多く「ネットワーク作り」や他の女性コーチとの情報交換または「とにかく女性コーチに会いたかったので」といったものや「(開催が) 軽井沢だから」という地理的条件の回答もあった。

表18．「女性コーチアカデミー」に参加した動機についての回答（n＝30）

アカデミーを参加した動機は何ですか？（複数回答可）	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	合　計
1、自分自身のスキルアップのために	8	10	10	1	29
2、友人・知人に勧められたから	0	0	3	0	3
3. その他（　　）	4	1	3	0	8

表19.「3、その他」と回答した参加者の記述

・ネットワーク作りたいと思ったから。（40歳）（27歳）（37歳）3名
・他競技の方の現状を知ること、また情報交換をしたいと思ったから(29歳)
・学び、気づき、ご縁を求めて（28歳）
・とにかく「女性コーチ」に会いたかったので。（46歳）
・何か変わるかもしれない、とりあえず行ってみよう。（28歳）
・軽井沢だから（43歳）

2．女性コーチアカデミーの活動や考えについての「共感度」

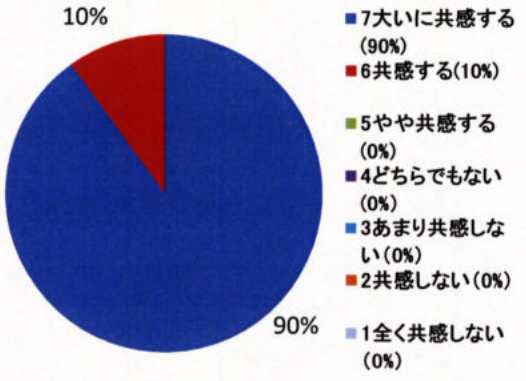

図23.　設問Ｑ１．Ｂ．①
スポーツでの女性の地位向上を目指す

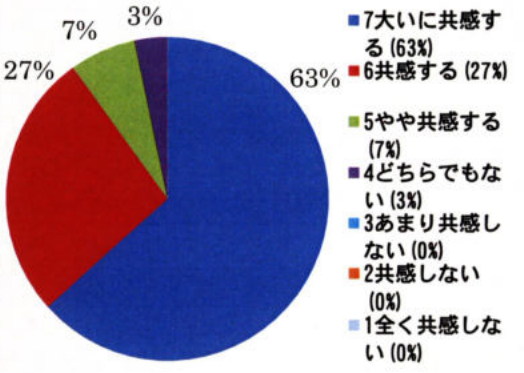

図24. 設問Ｑ１．Ｂ．②　女性アスリートを指導できる環境を作る

ここでは設問において「女性コーチアカデミー」が目指す、日本の女性スポーツ関係者に「共感」して貰えるような活動や考え方についての「共感度」を６つの設問において７件法（７：大いに共感する、４：どちらでもない、１：全く共感しない）で聞いている。

設問Q1. B. ①の「女性の地位向上を目指す」や③の「女性アスリート特有の問題を理解した指導者の必要性」また、⑤の「女性指導者養成のプログラムやセミナーの実施」や⑥「スポーツ関係者の経験や知識の共有」という４つに関しては、上記の図（図23、図25、図27、図28）からも分かるように、その殆んどが、７段階中の６以上の「大いに共感するやほぼ共感する」と答えていた。

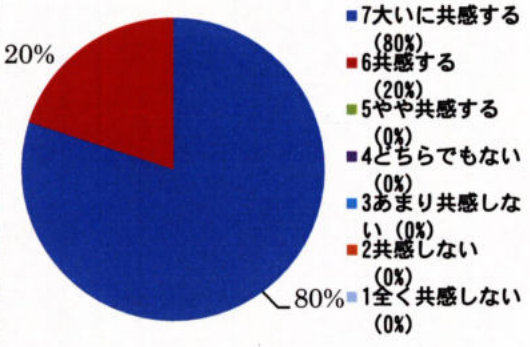

図25. 設問Q1. B. ③ 女性特有の問題を理解した指導者の必要性

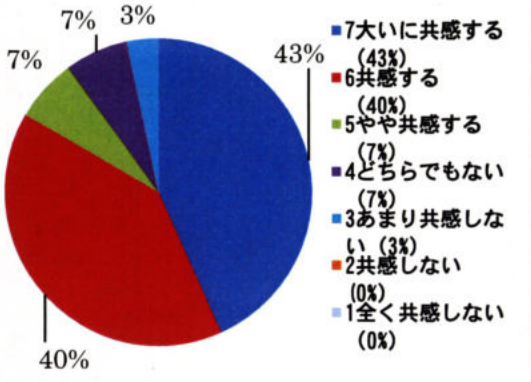

図26. 設問Q1. B. ④ 女性のスポーツ参加を阻害する社会的要因の解消

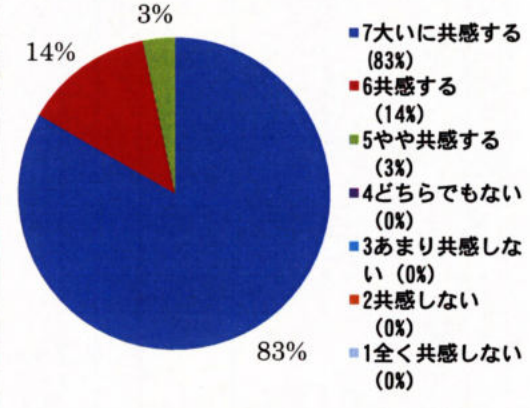

図27. 設問Q1. B. ⑤ 女性指導者養成のプログラムやセミナーの開催

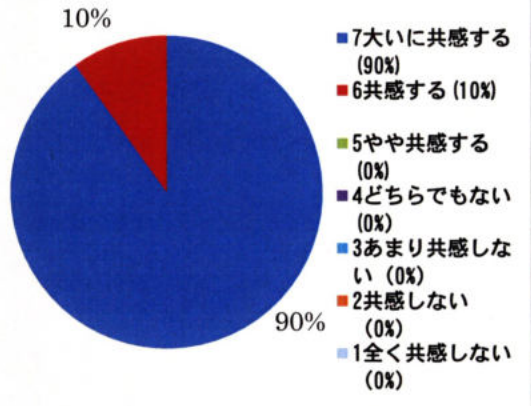

図28. 設問Q1. B. ⑥ 女性スポーツ関係者の経験や知識の共有

また、上記の4つのとは異なる回答となったのが、設問Q1. B. ②の「女性コーチが女性アスリートを指導できる環境を作る（女性がコーチとなれる環境を作る）。」で、大いに共感するは6割に止まっている。また設問④の「女性のスポーツ参加を阻害する社会的要因を解消していく。では大いに共感するは4割と少なく、設問④だけ評価に唯一「3. あまり共感しない」をつけた人がおり、平均値も全体に比べて低い値となった。唯一この設問だけにみられる特徴となっている。

3．女性コーチアカデミーへの期待

表20は、女性コーチアカデミーについての期待を参加者が自由記述で書いたものである。

表20．女性コーチアカデミーにあなたが期待していること(自由記述)(1)

・男性コーチ教育、学会とのコラボレーション（23歳）

・今後女性コーチそれぞれが活躍されている立場での現状や課題の共有、また最新の研究データの共有がされる場であってほしい。また、今回自分がコーチングに悩んだ状態での参加で、講師の方々や参加者の方々に勇気をいただき、背中をおしていただいたので、女性コーチとして悩んでいる人達の心の拠り所であってほしい。（25歳）

・情報共有（25歳）

・継続していくことを期待します。（28歳）

・各所に、参加者が持ち帰って伝えることはもちろんですが、講師の方々に来ていただいて、お話（講演、アカデミーなど）開催できる機会をつくれるように、現場で準備したいです。（28歳）

・2020年　東京オリンピック女子種目を女子監督でいきましょう。男性・女性が何かを決定する際性別によって区別されることがないようにスポーツ界をきっかけに女性も社会へ進出する機会を増やしていく！切り込み隊長になる！（28歳）

・今回の高倉先生のように、実際に監督として実績をあげられた方のお話し、経験談をもっと聞きたいと思いました。（29歳）

・今回のアカデミーのようなものや、セミナーなどを多く開いてもらいたいと思った。その告知を広くしてもらいたいし、学生などこれからの世代の人が参加しやすいものにしてほしい。（30歳）

・今回の内容に、自分が聞きたいことはすべて盛り込まれていました。正直な所、想像以上でした。どの分野も、「どこかできいたことのあるフレーズ」程度だったキーワードについて、すごく理解する一歩を得られたと思いました。今後もまた、こうした輪が続いていくこと、再度開催していただけるなら、幸いです。とても満足する所でしたが、もう少し安いと参加しやすいです。実は主人にも、「人生で1度しかない機会だろうから、楽しんでこい」と言われてきたもので、ここまでリッチな会は何度もはきびしいです。研究費も少ないので…。（31歳）

・今回参加させて頂けたことに感謝しています。今後もネットワークを広げていくことを願っていますし、このように集まる機会があると嬉しいです。今後ともよろしくお願い致します。（32歳）

・互いの競技の悩みや特性をシェアすることが大事。機会をどんどん作ってほしい。（35歳）

・○定期的な開催（勉強会）○ネットワークの運用（何かあった時に、クッションになっていただきたいです。情報を共有することでコーチの引き出しが増えると思います。○3泊4日で開催!!（37歳）

・オリンピック、パラリンピックあわせて、横のつながりが広がり共に問題解決できること。（37歳）

・女性コーチの資質が向上するようなプログラムの提案。（スキルマインド、チームワーク、リーダーシップ、など）（37歳）

・女性が女性を指導することの利点、もしくは気をつけるべき点や指導スキルなど経験・知識を教えていただきたい。（39歳）

・とても素晴らしい内容だったので、これをもっと広め、レベルの高いコーチが増えることを願ってます。（40歳）

・女性コーチの必要性はとてもあると感じています。しかし、男女関係なく、プロの指導者が増えれば、多くの問題解決につながると思います。大学や企業で仕事をしつつ、ボランティアの指導＋家庭という環境を変えていきたいです。（40歳）

・もっともっと今回のようなことを増やし、チャンスをあたえて頂きたいと思います。場所、チャンスがあれば行動に移せると思いました。本当に受けてよかったです。（40歳）

・どんどん先をいって'ポラリス'になって欲しいと思います。(41歳)

・地域や競技団体などにもこのような研修の機会を多く増やしてほしい。（ママ数を少なくしてでも）今回参加したメンバー全員でなくとも集まれるアカデミーなどをまたひらいてほしい。私達の心のよりどころとして今後ともよろしくお願い致します。ありがとうございました。（41歳）

・きめ細やかな配慮がほどこされていたプログラムで、女性が受けやすいと感じられる"感情"へのダイレクトなアプローチというスタイルを継続し、年々扱うプログラムの質をあげて行っていただきたいと思います。あとは、logical思考(時間限りありますが)、もう少しアイスブレイク、ディスカッションが追加されれば良いなと思いました。コミュニケーションもスキルに特化したものを扱っても良いと思います。（43歳）

・定期的に開催してほしいです。日程的にもう少しゆとりがあると、もっともっと内容の理解や情報交換も充実できるのでぜひとも次回はもう1日!?のばしてください。ありがとうございました。（44歳）

・何か有った時に相談できる機関であって欲しい。（46歳）

・スポーツに関わる女性達が常に一歩踏み出せる勇気を持てるようにエネルギッシュに活動して頂きたいと思います。（46歳）

・○リーダーとしての自分の軸を確立すること。○リーダー（コーチ）として、具体的かつ実用的なスキルを身につけること（具体例：コーチング（コミュニケーションスキル）、チームビルディングスキルetc）（47歳）○広くネットワークを作り、具体的目標達成のために活動すること（47歳）

・誰かや何かに期待しているばかりでなく、自分自身も何が出来、どう行動できるか、するのかを考えさせられた。まずできることから取り組めるよう、今後も関わり、相談していける情報共有としての場であって欲しい。（59歳）

表20. 女性コーチアカデミーに参加者が期待していること（2）

・スポーツに関わる女性達が常に一歩踏み出せる勇気を持てるようにエネルギッシュに活動して頂きたいと思います。（46歳）
・○リーダーとしての自分の軸を確立すること。○リーダー（コーチ）として、具体的かつ実用的なスキルを身につけること（具体例：コーチング（コミュニケーションスキル）、チームビルディングスキルetc）（47歳）○広くネットワークを作り、具体的目標達成のために活動すること（47歳）
・誰かや何かに期待しているばかりでなく、自分自身も何が出来、どう行動できるか、するのかを考えさせられた。まずできることから取り組めるよう、今後も関わり、相談していける情報共有としての場であって欲しい。（59歳）

自由記述による「女性コーチアカデミー2015」への期待という設問に対する回答では、「男性コーチ教育」「女性コーチの現状や課題の共有」「女性コーチの心の拠り所」「情報共有」「継続への期待」「2020年東京オリンピック女子種目を女子監督で（軽井沢宣言）」「女性も社会進出の機会を増やす」「ネットワークを広げていくこと」「互いの競技の悩みや特性をシェアすること」「オリ・パラの横のつながり」「女性の資質向上プログラムの提案」「仕事＋ボランティアの指導＋家庭の環境の変化」「研修の機会を多く増やす」「今後のプログラムの質の向上」「相談できる機関であって欲しい」「相談していける情報共有としての場であって欲しい」というようなセンテンスが抽出された。

第3項　SNSの利用と情報発信

質問紙調査のPartⅡの後半においては、SNSの利用状況やその頻度、「情報発信」や意欲についての回答を求めた。

1．　参加者のSNSの利用状況についての設問

今回の参加者に対して自分自身のSNSの利用状況について質問した。まず、利用頻度についての回答が（図29）、利用しているSNSが何かについての回答が（図30）である。

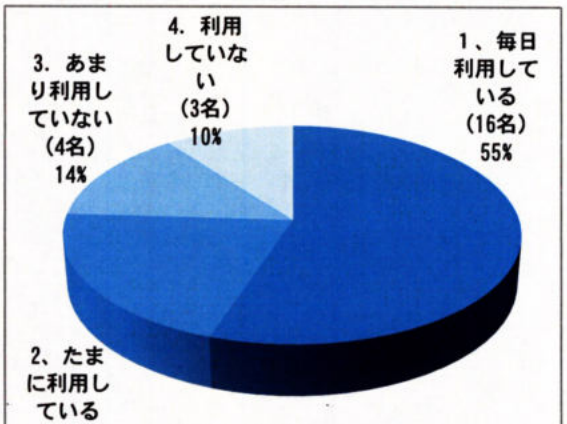

図29. 設問Ｑ２．Ａ.
ＳＮＳの利用頻度について

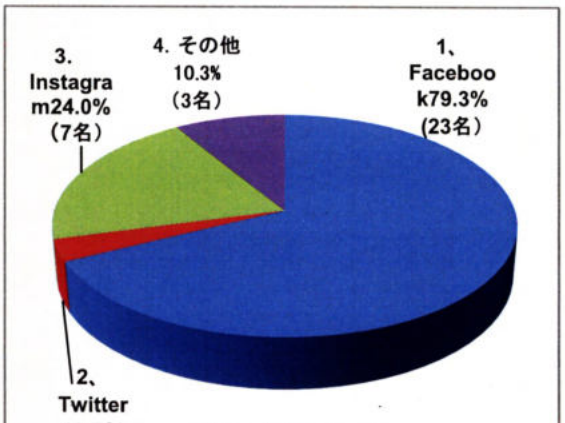

図30. 設問Q2. B.
利用しているSNSの種類

今回の参加者のSNSの利用状況については、30名のうちの有効回答数29のうち26名(89.6%)は何らかの形でSNSを利用している。毎日利用していると答えた人は16名(55%)と半数以上で、たまに利用している人を含めると75.8%もの非常に高い利用率であった。利用しているSNSの中でもFacebookを79.3%（23名）と約8割弱が利用していてかなりの利用率である。次いで多いのがInstagramの24.1%（7名)、Twitterの13.7%（4名）となっている（複数回答有)。

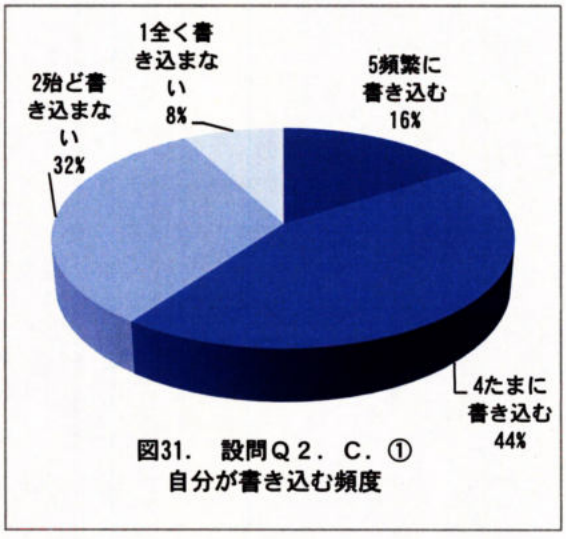

図31.　設問Ｑ２．Ｃ．①
自分が書き込む頻度

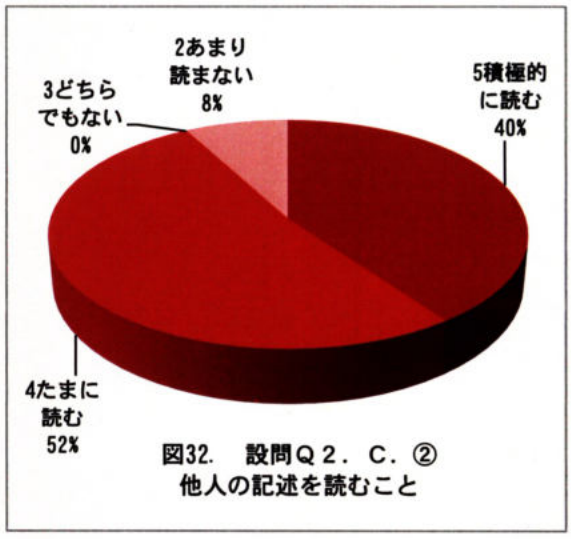

図32.　設問Ｑ２．Ｃ．②
他人の記述を読むこと

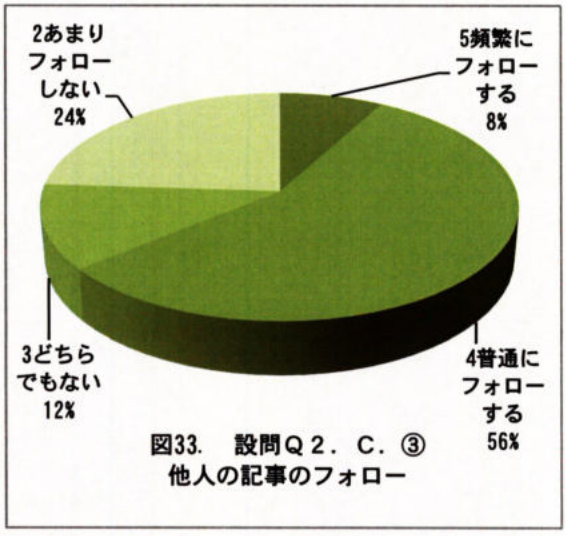

図33.　設問Ｑ２．Ｃ．③
他人の記事のフォロー

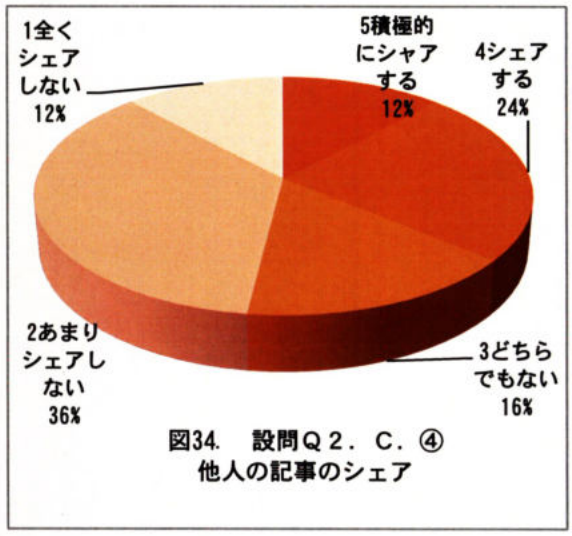

図34.　設問Ｑ２．Ｃ．④
他人の記事のシェア

SNSについての利用方法については、有効回答29のうち25名から回答を得た。Q2. C. ①「Sに書き込む頻度について」、②「他人の記述を読むことについて」、③「他人の記事をフォローすることについて」、④「他人の記事をシェアすることについて」の4つを質問した（図31、図32、図33、図34)。自分が書き込む頻度については、頻繁に書き込むのは16%と少なく、書き込まないかほとんど書き込まない人が40%で、たまに書き込むという人の44%と同じくらいであった。しかし、他人の記述を見るということに関しては、積極的に読むという割合は40%、たまに読むという52%

と合わせると92%にもなる。他人の記事のフォローについても積極的で、頻繁にあるいは普通にフォローするという割合は64%になる。あまりフォローしいという割合が24%で、どちらでもないが12%となっている。他人の記事をシェアするかとの質問では、あまり積極性は伺われない。積極的にあるいは普通にシェアするのは36%で、あまりシェアしないあるいは全くシェアしないというのを合わせると48%の半数近い数字となった。どちらでもないというのも16%ある。

2．女性コーチアカデミーに参加する前と参加後の情報発信

この設問では、女性コーチアカデミーに関して参加者が何らかの形で参加前と参加後に「情報発信」を行ったかを聞いたものである。女性コーチアカデミーの情報に関する「発信意欲」の変化をみたものである。7つの項目において「友人、同僚、知人」に対しての発信意欲だけが若干減少しているものの、他のSNSサイトで大学の授業、セミナーや講演会などでの発信も増加している。何と言っても「指導しているスポーツ団体の活動中に」というのは、参加前は33%（10名）だったのが、参加後は倍以上の77%（23名）に増加しているのが顕著である。

表21.「女性コーチアカデミー」に参加する前の情報発信についての回答（n = 30）

参加する前に情報発信をしましたか？（複数回答可）	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	合計 (%)
1. ＳＮＳのサイトで	1	2	2	0	5 (17)
2. ＳＮＳ以外のウェブサービスで	0	0	0	0	0
3. 大学の授業などで	0	1	0	0	1 (0.3)
4. セミナーや講演会などで	0	0	0	0	0
5. 指導しているスポーツ団体の活動中で	1	4	3	2	10 (33)
6. 友人、同僚、知人などに話した	6	7	6	2	21 (70)
7. その他（　　）	0	0	2	0	2 (0.7)

表22.「女性コーチアカデミー」に参加した後の情報発信についての回答（n = 30

参加する前に情報発信をしましたか？（複数回答可）	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	合計 (%)
1. ＳＮＳのサイトで	5	6	3	1	15 (50)
2. ＳＮＳ以外のウェブサービスで	1	0	0	0	1 (0.3)
3. 大学の授業などで	1	5	1	1	8 (27)
4. セミナーや講演会などで	1	4	1	2	8 (27)
5. 指導しているスポーツ団体の活動中で	7	8	6	2	23 (77)
6. 友人、同僚、知人などに対して	7	5	5	2	19 (63)
7. その他（　　）	1	0	2	0	3 (0.1)

第4項　質問紙調査結果のまとめ

表23は、質問紙調査をまとめたものである。

表23. 質問紙調査結果のまとめ

	調査項目	主な結果
1	個人属性	・年齢区分は、20歳代8名、30歳代10名、40歳代12名、50歳代2名とバランスの良い構成 ・オリンピックや世界選手権など世界大会出場経験者が32名の中で17名と半数以上を占め、その他の参加者も全国大会レベルの参加者であり、参加者全体が高い競技キャリアを持つ
2	参加理由と動機	・97%の参加者が「自分自身のスキルアップ」を挙げている。また、勧められたからというのが3名（1割）、その他の理由ではスキルアップを挙げた参加者が重複して回答している場合が多く「ネットワーク作り」や他の女性コーチとの情報交換を挙げている。
3	女性コーチアカデミーへの共感度	・①「女性の地位向上を目指す」、③「女性アスリート特有の問題を理解した指導者の必要性」⑤「女性指導者養成のプログラムやセミナーの実施」、⑥「スポーツ関係者の経験や知識の共有」という4つに関しては、その殆んどが、7段階中の6以上の「大いに共感するやほぼ共感する」と答えている。 ・上記の4つのとは異なる回答となったのが、設問②「女性コーチが女性アスリートを指導できる環境を作る（女性がコーチとなれる環境を作る）。」で、大いに共感するは6割に止まっている。また設問④「女性のスポーツ参加を阻害する社会的要因を解消していく。」では大いに共感するは4割と少なくなっている。
4	女性コーチアカデミーへの期待	・「男性コーチ教育」 ・「女性コーチの現状や課題の共有」「情報共有」「相談していける情報共有としての場」 ・「女性コーチの心の拠り所」「相談できる機関であって欲しい」 ・「女性の資質向上プログラムの提案」「継続への期待」 ・「2020年東京オリンピック女子種目を女子監督で（軽井沢宣言）」 ・「女性も社会進出の機会を増やす」 ・「ネットワークを広げていくこと」 ・「互いの競技の悩みや特性をシェアすること」 ・「オリ・パラの横のつながり」 ・「仕事＋ボランティアの指導＋家庭の環境の変化」（ワーク・ライフ・バランス） ・「研修の機会を多く増やす」 ・「今後のプログラムの質の向上」
5	ＳＮＳの利用状況	・今回の参加者のSNSの利用状況については、30名のうち毎日利用していると答えた人は55%と半数以上で、たまに利用している人を含めると76%もの高い利用率 ・利用しているSNSはFacebookを79.3%（23名）が利用していて最も多く、次いで多いのがInstagramの24%（7名）、Twitterの13.7%（4名）となっている ・自分が書き込む頻度については、頻繁に書き込むのは16%と少なく、書き込まないかほとんど書き込まない人が40%である。しかし、他人の記述を見るということに関しては、積極的あるいはたまに読むというのはと92%にもなる。他人の記事のフォローについても積極的で、頻繁にあるいは普通にフォローするという割合は64%になる。他人の記事をシェアするかとの質問では、あまり積極性は伺われない結果となっている。
6	情報発信への意欲	・女性コーチアカデミーの情報に関する「発信意欲」を参加前と参加後の変化でみたものである。7つの項目において「友人、同僚、知人」に対しての発信意欲だけが若干減少しているものの、他のSNSサイトで大学の授業、セミナーや講演会などでの発信意欲も増加している。何と言っても「指導しているスポーツ団体の活動中に」というのは、参加前は33%（10名）だったのが、参加後は倍以上の77%（23名）に増加しているのが顕著な特徴である。

以上、質問紙調査の「調査結果のまとめ」から言えることは、１点目は、今回の参加者30名のうちは半数以上が、世界レベルの大会経験者であり、その他も全国大会などの出場経験があるという競技レベルの高い集団であり、参加動機についてもその殆んどが「自身のスキルアップ」を掲げ

るなど向上心が強く、積極的な人材の集まりであること。2点目に、アカデミーへの活動や考え方についての「共感度」では、6項目中4項目でかなりの高い共感度であったが「女性コーチが女性アスリートを指導できる環境を作る」では大いに共感するは6割に止まっており、「女性のスポーツ参加を阻害する社会的要因を解消していく」では大いに共感するは4割と少なくなっていて、社会的阻害要因の解消ということは他の項目と比較してあまり感じていないという参加者の割合が多かったということになる。3点目は、今回の参加者のSNSの利用状況については、30名のうち毎日利用していると答えた人は55%と半数以上で、たまに利用している人を含めると75.8%もの高い利用率を示した。その中でも利用しているSNSはFacebookが79.3%（23名）と最も多かった。また、自ら書き込むというより、他人の記述を見る人の割合が多い。また女性コーチアカデミーに関しての情報発信意欲はプログラム終了後に飛躍的に伸びていることが分かる。

第2節　調査2（インタビュー調査）の結果

ここでは、本研究において質的研究として女性コーチアカデミー参加者（4名）に行ったインタビューの結果の詳細について述べていく。

第1項　データの分析

対象者自身が指導を受けた指導者の性別は、種目による違いや指導を受けた長さの割合の差は当然あるものの4名とも男性指導者、女性指導者のどちらからも指導を受けていた。それぞれの特性については、女性指導者に対しては「女性に対して厳しい」とか「良心的で話しやすい」あるいは「技術的にも精神的にもすごく細かい」という概ね好意的な発言が多かった。また、日本において女性指導者が少ない要因についての質問では、「女性は結婚、出産などがあるので指導者になるには覚悟しないとモチベーションが続かない」という、調査対象者自身が結婚、出産を経験された30歳代の発言や、「スポーツ界はまだまだ男性社会なのだなあと思う」や「男女の性差別が日本にはまだあること」というジェンダーに関する発言が顕著であった。

次に、女性コーチアカデミーに関する質問ついては、対象者4名とも大変高い満足感を示し、インタビュー調査からも質問紙調査の回答が裏付けられた。13のプログラムの中でも、特に「Coach DISC」と云われる行動分析アセスメントは皆さん印象に残ったプログラムとして挙げていた。

また、他の参加者との交流の点では2人が「パラリンピック関係者」と　緒だったことで、「障害者スポーツ」を意識させられたし、今後も応援する意識が生じたと答えている。また、他の参加者についての印象は「エネルギッシュな人が多い」や「前向きで、信念を持っていて人間力が高く、

意識レベルが高い」というものだった。受講後の自分自身に変化があったかとの質問に対しては「変わらない」という回答もあった反面、海外での生活経験がある20歳代の回答では「他の（スポーツ）先進国と、女性スポーツに対する日本とのギャップの開きを感じた」というものもあった。

SNSやその中でもFacebookの利用についての掘り下げた質問では、SNSに関しての考えを尋ねたが世代によって大きな差が見られた20歳代では「便利なツールであり自分が何をしているかを発信したい」という積極的なもの、30歳代は「暇な人がやるもの」、40歳は「ものによって全然違う用途と種類があるが使ってはいない」、50歳代では「SNSの意味そのものがよくわからないがが、Facebookは情報発信に使っている」というように世代間では様々な答えになった。

SNSの良い点と悪い点の認識を尋ねたが、良い点として挙げられたのが「早く情報収集できること」「何人かの人と繋がることが出来ることや素晴らしさ」「情報を一瞬で世界中に広めることが出来ること」などで、悪い点というか注意すべき点として「どこまでプライバシーを発信するか」や「批判的なことを書くことがいること」「人との繋がりに付き纏う煩わしさ」「見て欲しくない人にも情報がいく」というものだった。

一日の利用時間に関しては7時間というユーザーから、1時間くらいや10分ぐらいや5分ぐらいと大きな差が現れた。利用しているうえでの留意点に関しては「情報開示をどこまでやるか」や「批判的なことや自分の自己主張はしない」「細かいプライベートに及ぶことには踏み込まない」など情報開示について配慮していることが伺えた。また、インタビュー調査対象者4人ともSNSの中でもFacebookを中心に利用していた。

最後は「女性コーチアカデミー」のプロモーション活動に関することと、「女性指導者に関する今後の課題」について質問した。今後のプロモーションで大切なことは何かとの質問に「（女性指導者が増えることは）男性にもメリットがあるということを含められると変わるかな」というのがあった。また、自分が「（周りに影響力のある）「インフルエンサー」と言われることについて」は「有難いし、責任を持ってやる」とか「影響力はあると思うので、敢えて自己主張しない」や「発言や行動に責任があるということは当たり前として生活してきた」というようにインフルエンサーとしての自覚のある発言があった。自身が影響を受けたインフルエンサーとしては「両親」「母親」などを4人中3人があげていた。

今後の課題については「男性がもっと関わっていくこと（50歳代）」「女性指導者以外の人に女性指導者の重要性をどう分かって貰うか、協会の上の方のマインドを変えること（20歳代）」や「パートナーの理解は絶対必要（30歳代）」「男性の年配の方たちの理解が特に必要」と組織上やパートナーとしての異性の協力を求める声が多かった。